



『個人の超勤実態把握問題』と『昼部屋問題』の分会見解

10月10日に開催した第2回執行委員会において今回の『個人の超勤実態把握問題』と『昼部屋問題』をうけて、今後も【安全で質の高い輸送を提供出来る職場環境を創るため、理不尽な労働組合対策と一部管理者による独裁的職場運営とは断固たたく】意志を確認した。

第1に『個人の超勤実態把握問題』に対しては9月28日に「労働組合で使用する為の個人の超勤把握であればデータは出さない」という会社の一方的な主張がスタートである。同日、10時過ぎに自分の8月の超勤時間を聞きに行った組合員は「支社からの指示で超勤は出せない」として超勤時間自体提示されず、また同日の午後には別の組合員が「データを何に使うのか用途を言わないと出せない」などその後も理解出来ない対応が続いた。これは36協定締結の際に労使で確認した議事録違反だとして分会としても直ちに姿勢を改めるように求めたが、是正されない為労働委員会に相談する事態にまで発展し、労働委員会からも会社の姿勢は「労働組合に対する支配介入」と言われた程だ。

第2に『昼部屋問題』に関しては、9月27日に運転士分科会が4Fの昼部屋で常任委員会を開催していた所に、突如現場長が来て「退去」を命じ「移動」を強いられました。そもそも「昼部屋の会社の認識は何か？」と聞くと【壁】【何もない空間】【人が入って話す場所ではない】と主張をし、【私（現場長）が施設管理の最終的な責任者であり、今後は貸さない】と主張をしました。その話を聞いた私たちは唖然としましたが、その後も主張を変える事はありませんでした。30日に今度は【申請書（様式7）を出すかどうかの認識が間違っていた】と主張を変えたのです。

超勤問題では「組合で使うなら超勤を示さない」昼問題では「こういう場（組合）では貸さないが業務では貸す」という発言から捉え返すとスタートは【異常な労働組合敵視】の姿勢である。安全問題では8月22日に台風対策に関し、列車無線にて「入区車両に自車手歯止め（鉄製）を使用するよう」指示があり、それに伴い組合員が入区車両に自車手歯止めを掛けようと下回りを移動していた時、突然車両が分割・入換えを開始する事象がありました。当日分会は「命に関わる問題だから対策するよう」強く求めました。しかし8月31日の安全衛生委員会の場で確認すると8月22日の対策はおろか、何も具体的に決まっていない現実がありました。運転職場において安全問題に真剣に耳を傾けている姿勢が希薄で判断もなく、一方労働組合対策ばかりに躍起になっている職場運営には非常に危機感を感じると同時に私たちは是正を求めたたかわなくてはなりません。私たちは同時に一部管理者を実体化して問題にすることではなく、本質的な部分を見れば今のJR東日本会社の質が職場に滲み出ている事を柱として見ていかななくてはなりません。

私たちは「コンプライアンス」を求められるが「不当労働行為まがいの行為を受ける」

私達は「正しい報告」を求められるが「平気で嘘をつかれる」

私達は「就業時間中の組合活動が出来ない」が「就業時間中に組合対策に躍起になる一部管理者がいる」

そんな異常な職場管理体制下において、私たちは『福知山事故の教訓』から安全が脅かされる事に繋がる事はお客様に迷惑がかかり命に関わる事は明白であり、労働組合として企業体質をチェックし、是正する点に関してはたたかい抜く責務がある。【安全で質の高い輸送の提供】に尽力されている組合員の皆様の苦勞に分会執行部は改めて感謝するとともに今後も独裁的で多くの組合員が不利益を受けるような職場管理体制には断固たたく。全組合員で最後までたたかいていこう！

2016年 10月10日 第2回 小金井運転区分会執行委員会

小金井運転区分会から分会見解が出される！

労働組合運動への介入・敵視は許さない！

